

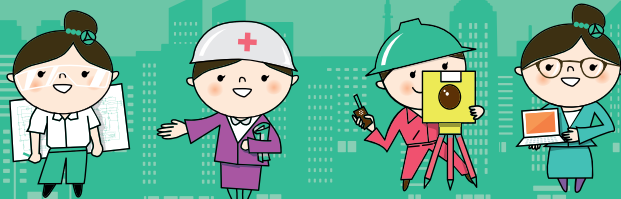
リコ
チャレ

RIKOCHALLENGE

理工チャレンジ



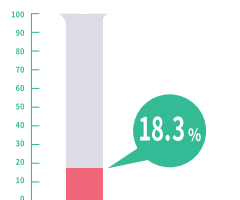
女子生徒等の理工系への進路選択を応援



女子中高生・女子学生の皆さんが、将来の自分をしっかりイメージして理工系分野に進路選択（チャレンジ）することを応援する取組を、内閣府男女共同参画局が中心となって進めています。

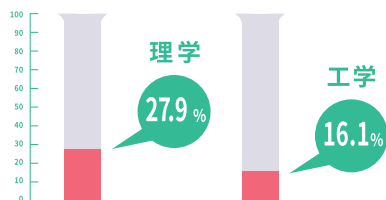
日本の理工系分野の現状

日本の研究者に
占める女性の割合



出典：総務省「科学技術研究調査」（令和5年）

専攻分野別に見た
女子学生の割合（学部生）



出典：文部科学省「学校基本調査」（令和5年度）

女性の理工系人材が必要です

科学技術・学術分野における技術革新（イノベーション）

の創出には、多様な視点や発想を取り入れることが不可欠であり、女性研究者・技術者の活躍が期待されています。しかし、特に理工系分野を中心に、女性研究者・技術者の数は低い水準に留まっています。そのため、理工系分野に対する興味関心や理解を向上させる取組を推進し、次代を担う女性の理工系人材の育成につなげます。

リコチャレイベント

夏のリコチャレ

～理工系のお仕事体感しよう～

夏休み期間に、主に女子小中高生を対象として実施する企業・大学・学術団体等のイベントを取りまとめて発信しています。
【共催：内閣府、文部科学省、経団連】



職場見学、工場見学、職業体験、実験教室、女性社員との交流、シンポジウム等

2023年開催実績96団体162イベント約6,300名が参加

※夏のリコチャレ以外にも、通年でイベントを発信しています



リコチャレウェブサイト

理工チャレンジ (リコチャレ) サイト



<https://www.gender.go.jp/c-challenge/>

イベント情報

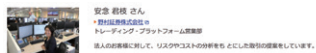


理工チャレンジ

女子中高生・女子学生の理工系分野への進路



理工系女性からのメッセージ



理工系分野を志望した経緯・理由
数学が大好きで、将来に何をしたいかという目標があったので、理工系分野の勉強を頑張りました。

現在の仕事（研究）の魅力ややりがい
自然界の不思議な現象を研究し、新しい発見や知見を得ることが、とてもやりがいがあります。研究は、未知の世界を探索する楽しさがあります。



江沢 さん
* 東京大学大学院
* 数理学部
* 数論・代数学研究室
* 数論・代数学研究室
* 数論・代数学研究室

理工系分野を志望した経緯・理由
数学が大好きで、将来に何をしたいかという目標があったので、理工系分野の勉強を頑張りました。

企業、大学等からのメッセージ



企業、大学等からのメッセージ
理工系分野を志望した経緯・理由
数学が大好きで、将来に何をしたいかという目標があったので、理工系分野の勉強を頑張りました。

現在の仕事（研究）の魅力ややりがい
自然界の不思議な現象を研究し、新しい発見や知見を得ることが、とてもやりがいがあります。研究は、未知の世界を探索する楽しさがあります。



江沢 さん
* 東京大学大学院
* 数理学部
* 数論・代数学研究室
* 数論・代数学研究室
* 数論・代数学研究室

理工系分野を志望した経緯・理由
数学が大好きで、将来に何をしたいかという目標があったので、理工系分野の勉強を頑張りました。



リコチャレ応援団体・理工系女子応援ネットワーク

理工チャレンジの取組は、趣旨に賛同する産・学・官の団体が連携して進めています。



リコチャレ応援団体

理工チャレンジの趣旨に
賛同する大学・企業・学術団体等

約 **890** 団体



理工系女子応援 ネットワーク

リコチャレ応援団体のうち、
具体的な取組・活動を行っている団体

約 **220** 団体



理工系女子応援 ネットワーク会議

- 理工系女子応援ネットワークに
登録した団体が出席
- 取組に関する情報共有を通じて
相互連携を強化



STEM Girls Ambassadors

女子生徒等が、STEM 関連分野に興味関心を持ち、
理工系分野への進路を自分自身の選択の一つとして
前向きに捉えることを推進するため、2018年6月、
「STEM Girls Ambassadors（理工系女子応援大使）」
が立ち上げられました。

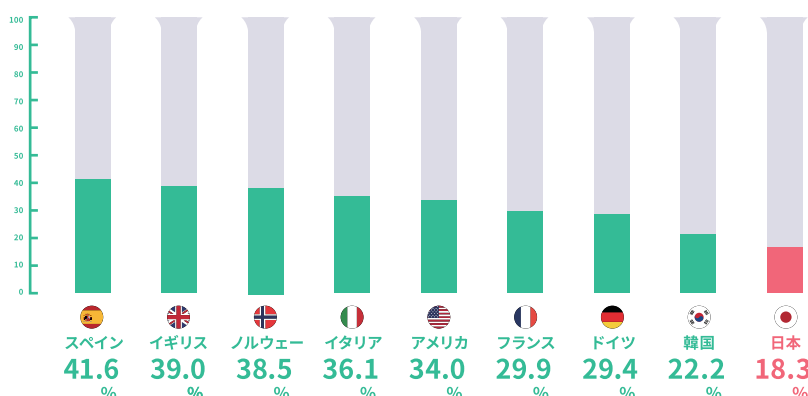


シンポジウム

- 有識者や実際に活躍する女性研究者・技術者（ロールモデル）
による情報発信
- 関係団体と連携して開催するなど、社会の理解を促進



諸外国の研究者に占める女性割合



諸外国の研究者に占める女性割合は
30%を超える国が増えてきており、
それと比較すると日本は低い水準に
留まっています。

(備考)

- 総務省「科学技術研究調査」(令和5年)、OECD「Main Science and Technology Indicators」、米国国立科学財団(National Science Foundation: NSF)「Science and Engineering Indicators」より作成。
- 日本の数値は、2023(令和5)年3月31日現在の値。アメリカ、イギリスは2019(令和元)年値。その他の国は、2020(令和2)年値。推定値及び暫定値を含む。
- アメリカの数値は、雇用されている科学者(Scientists)における女性の割合(人文科学の一部及び社会科学を含む)。
- 数値は2024年1月26日確認時点。